

ひきこもり長期高年齢化に対する声明文

平成 30 年 3 月 18 日

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会

共同代表 伊藤正俊

私たちは、ひきこもり当事者の家族たちがつながって情報などを共有し合い、要望などを代弁していくために生まれた、ひきこもり家族会としては唯一の全国連合組織です。1999年に設立されて以来、19年にわたり、全国各地域で孤立し、思い悩む、ひきこもり家族当事者たちの受け皿として、全国に58支部がそれぞれの地域で活動を続けてまいりました。

最近、「8050問題」という言葉が注目されるようになりました。ひきこもりの長期化高年齢化によって、親が80代、子が50代を迎えた孤立家族が生きていくことに行き詰まるなどして、これまで隠されてきた地域の課題が各地で噴出し始めています。

先日も、札幌市のアパートの一室で、82歳の母親とひきこもる52歳の娘の親子が、飢えと寒さによって孤立死した姿で発見されたと大きく報じられました。

親子は「他人に頼りたくないから」と、どこからの支援を受けることもなく、母親が亡くなると後を追うように、娘も衰弱死していったそうです。でも、こうした悲劇は、氷山の一角に過ぎません。

水面下には、たくさんの家族たちがいて、その向こうには、つながりのない当事者たちがいます。自分だけがつらいわけでもないし、お子さんだけが苦しんでいるわけではありません。私たちは、そんな孤立している人たちに、ぜひ「1人じゃないよ」「みんなが待っているよ」と伝えていきたいのです。

長期高年齢化していく中で大事なものは、いかにご家族が元気になれる仕組みをつくれるかだと思えます。

私たちKHJ家族会連合会としては、家族が元気を回復していくための活動をし、地域共生社会の構築を推進したいと思っています。

今回の調査結果を踏まえると、居場所の設置、家族会の存在、訪問支援、の3つが大事な事業であることがわかりました。この必要性を全国に発信していきたい

水面下には、ひきこもりは恥ずかしいことだからといって、子供の存在を地域で知られないよう隠したりして、誰にも相談できない、「助けて」と言えない、そんな家族が、全国にはたくさんいます。

親御さんの世代は、まさに、そういう価値観や世間体を大事にしてきた世代でもありません。でも、これからは、いろんな価値観、いろんな生き方を認めながら生きていくしかありません。

これまでは、GDP効果、経済効率性が優先される中だけで価値観が決まってきました。そうではなくて、人としてどのように生きていくのか。豊かになった時代だからこそ、お互いに認め合う社会になったらいいのではないのでしょうか。

親御さんがご苦労されてきた時代から、価値観は大きく変化しました。今までのしがらみに縛られた社会では、これからの人たちは生きてはいけません。そんな社会の変革を皆さんにお伝えしたい。だから、皆さんとつながりたいし、勇気を出して「助けて」という、SOSの声を上げてもらいたいです。

私たち「ひきこもり家族会連合会」には、当事者だからこそ痛みの分かり合える、19年にわたる豊富な情報やノウハウが蓄積されています。ひきこもり行為は恥ずかしいことではないし、決して1人ではない。ぜひ、家族会につながってほしい。

これからは価値観を変えていかなければ、人が人として生きていく社会にはなりません。親御さんには、自分の子どもが就職すればいいということではなく、視野を広げて頂く必要があります。まず家族が動かなければ、社会は変わらない。だから、勇気を出して、腹を括って、一歩前へ、踏み出しませんか。

国も「ひきこもり支援」としては、来年度、生活困窮者自立支援法の事業の拡充、ピアサポート養成研修や居場所の開設、家族会などのプラットフォーム構築のための手厚い予算を市町村に付けてくださり、後押ししてくれています。各自治体の相談窓口など現場の支援者たちも、いろんな問題が山積みになっていて、大変だとは思いますが、ゴールありきの支援ではなく、マニュアルやノウハウを押し付けるのではなく、まずはひきこもり本人や家族が直面している障壁や実態を知ってもらいたいと思います。

そのためにも、各自治体には実態調査を実施してもらいたい。本人や家族が地域で、どういう課題に直面しているのかを丁寧に聞いて、そうした実態を知ったうえで、実態に則した支援をしてもらいたい。生き方に迷った人たちが本当に求めている支援であってほしいと願っています。

自治体の皆様が、支援をしていくうえで、何かわからないことがあれば、何でも家族会に相談してもらいたいし、家族会としっかり連携して、支援を進めて頂きたいと望んでいます。

KHJ家族会連合会は、それぞれがいろんな思いで活動しています。私たちが目指すのは、問題解決だけではなくて、1人1人、自分が社会で必要とされる存在として、その人なりに生きていきたいと思えるような社会を、一緒に構築していきたいと考えています。

以上